

## 第2章 音更町の概況と災害

### 第1節 自然的条件

#### 1 位置及び面積

本町は、十勝平野の中央部北緯42～43度、東経143度に位置し、南は十勝川を隔てて帯広市及び幕別町に接し、北は士幌町、西は芽室町と鹿追町、東は池田町にそれぞれ接しており、面積は466.02 km<sup>2</sup>、広さは南北32.8km、東西28.7km、東部の南北に走る「長流枝内（おさるしない）丘陵」を除いておおむね平坦である。



#### 2 地勢

- (1) 本町が位置する十勝平野は、北海道の南東部にあり、西は日高山脈、北は大雪山火山群・十勝火山群、東は白糠丘陵に囲まれ、南は豊頃丘陵を経て、太平洋に臨んでいる。
- (2) 地質構造的には、関東平野に類似する構造盆地を成すといわれ、造盆運動による数度の沈降と上昇を繰り返し、十勝平野中央付近に河川が集中するという特異な河川形態をとる一大構造盆地を形成している。
- (3) 平野の大部分は、東部の洪積大地である豊頃丘陵地、北部の然別火山群の裾に広がる隆起扇状地、西部の日高山脈を背にし、北は新得から南は広尾に連なる広大な複合扇状地と河岸段丘からなる台地で、表層は樽前山、十勝岳、恵庭岳、支笏火山等から噴出した火山灰で覆われている。

#### 3 河川

大雪山系に源を発する音更川など大小数多くの河川があり、平野部を縦貫して十勝川に注いでい

る。主な河川は、音更川、土幌川、然別川からなっており、いずれも市街地形成地帯を流れている。

#### 4 気象

地域的には、温帯中北部に属した寒暖の差が激しい大陸性気候地帯に属し、季節的には夏季の高温、乾燥の循環が顕著で、年間を通して晴天日数が多く、湿度も比較的低い。

最深積雪は、昭和45年3月の177cm、近年では平成16年2月に111cmが記録されており、夏、冬の寒暖の差が激しい気候となっている。

※資料編 3-1 : 気象記録

## 第2節 社会的現況

町の人口は、昭和35年以降、平成2年の微増以外は平成22年まで大きく人口を増加させたが、平成27年には人口減少に転じている。

周辺都市への交通は、国道241号が町の中心を走り、南は帯広市、北は士幌町へ通じている。また、南部に道央圏と道東圏を結ぶ道東自動車道が通過し、音更帯広インターチェンジが位置している。さらに道道73号（帯広浦幌線）、道道75号（帯広新得線）、道道337号（上士幌士幌音更線）等の道道が走り、南は帯広市、東は池田町、西は芽室町に通じている。

※資料編 3-2 : 音更町の人口推移



音更町の道路ネットワーク